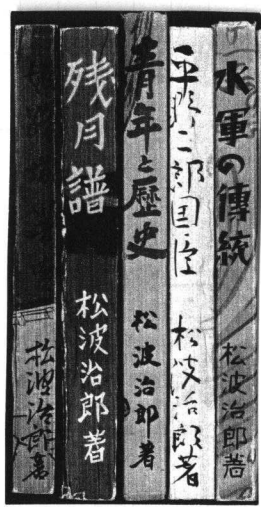


松波治郎 まつなみ じろう 小説家。明治二十二年七月九日岐阜縣生れ、昭和二十二年四月十五日没（一九〇一六）。號望楠庵主人、節齋。『新愛知』、『東京朝日新聞』、『東京毎夕新聞』編輯局を経て、愛國通信社編輯局長。のち著述生活。

- 著書 『秋あゝ！奉天開城』（昭和九年三月十二日農藝社）、『弘法大師論語』（松波節齋名、昭和十一年二月五日教材社）、『傳教大師論語』（松波節齋名、昭和十一年四月二十日教材社）、『會津論語』（松波節齋名、昭和十一年十一月十五日教材社）、『誠史一國の華』講談實話集』（内題「誠史一國の華」昭和十五年一月十五日宮越太陽堂書房）、『姫路城異變』（昭和十五年一月二十日東京聯合通信社）、『日本武將傳』（内題「日本忠魂武將傳」昭和十五年十一月二十五日壯年社）、『大楠公教書』（昭和十五年十一月十六日宮越太陽堂書房）、『新月江戸姿』（昭和十六年七月宮越太陽堂書房）、『亂雲伏見街道』（昭和十六年七月二十日宮越太陽堂書房）、『残月譜』（昭和十六年八月五日宮越太陽堂書房）、『愛國の熱情と武士道』（昭和十七年一月十日博正社出版部）、『葉隠武士道』（戦時普及版・昭和十七年二月十日一路書苑）、『日本名將傳』（昭和十七年七月二十一日東水社）、『隨筆五十年』（昭和十七年十月十日彰文館）、『武士の子』（昭和十七年十一月十五日彰文館）、『青年と歴史』（昭和十八年二月二十七日彰文館）、『平野の郎國臣』（昭和十八年十一月安土書房）、『水軍の傳統』（昭和十九年一月十日彰文館）、『山鹿語類』（昭和十九年二月二十



白史土書房）、『玉音頌』（昭和二十四年十月十五日日本弘報社）、

『おんたの日本史』全二冊（第一卷―王朝篇・昭和二十一年十一月五日、

第二卷―鎌倉・室町篇・十一月十日、第三卷―戦国・江戸篇・二十一年一

年一月十五日抄義出版株式会社）、『徳川代々大奥の女たち』（昭和

四十一年八月二十日近代書房）等。